



海と空の間から

～小型無人飛翔体で海を 観・診・視 る～

開会挨拶

古川 勝彦 教授

九州大学 総長特別補佐

来賓挨拶

松本 和人 様

文部科学省 研究開発局

宇宙開発利用課

宇宙連携協力推進室長



開催趣旨及びスケジュール説明

市川 香

開催趣旨

- 「超小型衛星」や「無人機（ドローン）」の登場により、宇宙や空は特定の専門家だけのものではなくなりつつあります。「小型無人飛行体」の活用により、**研究者や中小の事業者が、自分の研究費・資金で「宇宙や空」からの視点が手軽に手に入る時代**を迎えようとしています。
- 陸上に住む我々にとって、海で何が起きているかを知る手段は限られています。なかでも、**広大な海を俯瞰する上空からの視点は、海洋を観測・診断・監視**していくうえで最も重要なものの一つです。
- このセミナーでは、「新しい航空宇宙技術が海洋学に何をもたらすか」、「有効な海洋観測・診断・監視を行うためには、航空宇宙分野からのどのような取組が必要か」を、統合的に考えていきます。

スケジュール

【9月10日（木）】～17:30

- **基調講演:** 海洋観測の将来と航空宇宙技術への期待
 - ◆ パネルディスカッションのための基礎講座
- **講演とパネルディスカッション**

【9月11日（金）】 10:00～13:00

- **特別講演1:** 超小型衛星の現状と将来 （趙孟佑・九州工業大学教授）
 - ◆ プラットフォームとしての超小型衛星の現状と将来展望
- **特別講演2:** NASA超小型衛星群ミッション「CYGNSS」
（**Chris Ruf**・ミシガン大学教授）*英語講演
 - ◆ 超小型衛星のユニークなアプリケーションGNSS-Reflectometry



パネルディスカッション 海洋

- 海洋関連の様々な現象を観測・将来予測／診断・監視するために
 - ◆ どのような空間分解能・頻度で
 - ◆ どのくらいの範囲や期間
 - ◆ どの程度の精度で情報を得る必要があるのかを紹介

海洋物理・地球環境

生物・漁業

津波・漂流ゴミ

安全監視



パネルディスカッション 宇宙航空

- 様々なプラットフォームの飛行特性（高度，持続時間，搭載可能重量，コスト，制約など）を紹介
- 海洋側の要求との相性を検討
 - ◆ もし現実的に適切なセンサーがあれば観測可能になるのか？

ゾンデ

バルーン

ドローン

超小型衛星



